

## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課  
担当課長名：東川 直正

事業名	一般国道8号 <small>こまつ</small> 小松バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局						
起終点	自：石川県能美市大長野 至：石川県加賀市箱宮町				延長	15.6km						
事業概要	一般国道8号小松バイパスは、交通混雑の解消、交通事故の低減、広域幹線ネットワークの強化などを目的とした延長15.6kmの4車線化事業である。											
H19年度事業化	S49年度都市計画決定	用地着手：－		H21年度工事着手								
全体事業費	約100億円	事業進捗率	約65%	供用済延長	7.3km							
計画交通量	30,100～48,500台/日											
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年								
	(事業全体) 5.0	(残事業)/(事業全体) 52/180億円	(残事業)/(事業全体) 412/897億円	平成30年度								
	(残事業) 7.9	事業費：23/108億円 維持管理費：29/72億円	走行時間短縮便益：349/773億円 走行経費減少便益：43/88億円 交通事故減少便益：20/36億円									
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C= 4.9～5.7 (交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C= 7.8～8.4 (交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C= 4.9～5.0 (事業費±10%)</td> <td>事業費：B/C= 7.5～8.2 (事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C= 4.9～5.1 (事業期間±20%)</td> <td>事業期間：B/C= 7.7～8.0 (事業期間±20%)</td> </tr> </table>						(事業全体) 交通量：B/C= 4.9～5.7 (交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C= 7.8～8.4 (交通量±10%)	事業費：B/C= 4.9～5.0 (事業費±10%)	事業費：B/C= 7.5～8.2 (事業費±10%)	事業期間：B/C= 4.9～5.1 (事業期間±20%)	事業期間：B/C= 7.7～8.0 (事業期間±20%)
(事業全体) 交通量：B/C= 4.9～5.7 (交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C= 7.8～8.4 (交通量±10%)											
事業費：B/C= 4.9～5.0 (事業費±10%)	事業費：B/C= 7.5～8.2 (事業費±10%)											
事業期間：B/C= 4.9～5.1 (事業期間±20%)	事業期間：B/C= 7.7～8.0 (事業期間±20%)											
事業の効果等	<p>①日常生活圏の各都市間の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤者数の増加など、地域間の連携強化が期待できる。</li> </ul> <p>②物流の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路ネットワークの強化を図ることで、工業をはじめとした地域産業のさらなる活性化が期待できる。</li> </ul> <p>③主要な観光地へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各観光地や施設へのアクセス性・周遊性向上が期待できる。</li> </ul> <p>④緊急輸送道路としての機能向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に強い道路ネットワークのさらなる強化が図られる。</li> </ul> <p>⑤地域連携プロジェクト（石川県長期構想）の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線ネットワークの強化が図られ、石川県の長期構想「ダブルラダー輝きの美知」構想の実現に大きく貢献。</li> </ul>											
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から頂いた主な意見等 地元首長および周辺市町から、小松バイパスの早期全線4車線化に向けた要望を受けている。</li> <li>・石川県知事の意見 小松バイパスについては、加賀地域に波及している北陸新幹線金沢開業の効果を持続・発展させていくとともに、物流の円滑化による地域産業の活性化を図る観点からも、早期4車線整備が不可欠となっている。このため、本区間については、引き続き事業を継続するとともに、コスト縮減に努めつつ着実に整備を進め、平成34年度の北陸新幹線金沢敦賀間の開業を見据え、早期完成を図っていただきたい。</li> </ul>											
事業評価監視委員会の意見	審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	前回再評価以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。											

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：用地進捗率100%、事業進捗率65%（平成30年3月末時点）
- ・残事業の内容：改良工事、橋梁工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・改良工事及び橋梁工事を推進し、大長野IC～八幡IC間の早期4車線化開通を目指して事業を推進する。
- ・粟津IC～箱宮IC間についても、早期の全線4車線化に向けて事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・新技術の活用により、コスト縮減に努める。

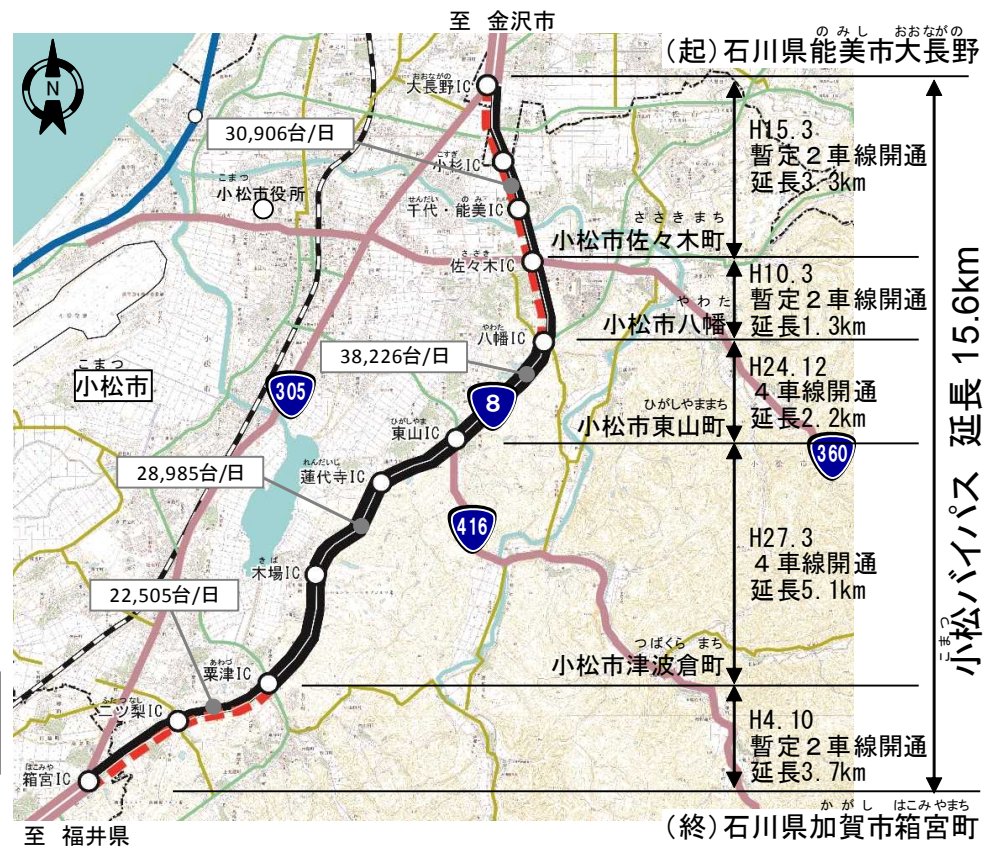
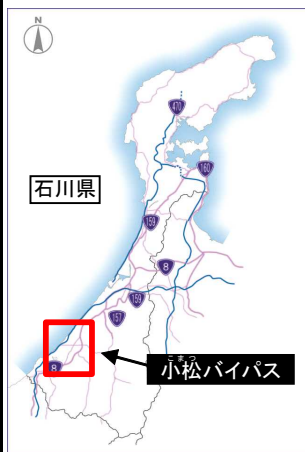
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。

事業概要図



- 凡例
- : 事業中区間
  - : H27道路交通量調査

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。